

## 発達の段階に応じたキャリア教育の在り方に関する研究

### －「人間関係形成・社会形成能力」「キャリアプランニング能力」の育成を通して－

平成23年1月に出された中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」を受け、児童生徒の社会的・職業的自立を促すため、基礎的・汎用的能力のうち、「人間関係形成・社会形成能力」「キャリアプランニング能力」を育成することを中心に実践・研究を推進してきた。2つの能力の育成を軸にした授業や活動を通し、児童生徒が相手に応じた接し方を心がけたり、仲間と協力したりする場面が増えた。また、働くことについての理解や役割意識が向上してきてだけでなく、課題対応能力も高まりつつあり、上記の新しいキャリア教育を学校の教育活動に取り入れてきたことの効果が徐々に表れている。

<検索用キーワード> キャリア教育 基礎的・汎用的能力 キャリアカレンダー 人間関係形成能力  
キャリアプランニング能力 役割 インターンシップ 振り返り

#### 指導助言者

愛知教育大学講師

高綱 睦美（平成23、24年度）

#### 研究会委員

蟹江町立須西小学校教諭（現津島市立津島東小学校教頭）窪田 健司（平成23年度）

蟹江町立須西小学校教諭

岡本由紀子（平成24年度）

東浦町立生路小学校教諭

松山 幸代（平成23、24年度）

江南市立宮田中学校主幹教諭

長岡 晃臣（平成23、24年度）

蒲郡市立西浦中学校教諭

藤井 克枝（平成23、24年度）

愛知県立尾西高等学校教諭

美山 雄一（平成23、24年度）

総合教育センター研究指導主事

白山 素子（平成23年度）

総合教育センター研究指導主事

米津 明彦（平成23、24年度）

総合教育センター研究指導主事

近藤 美和（平成24年度）

総合教育センター研究指導主事

田中 基明（平成24年度）

総合教育センター研究指導主事

山口 雅俊（平成23、24年度主務者）

### 1 はじめに

近年の産業・経済の構造的な変化や雇用の多様化・流動化を背景として、就職・進学を問わず、児童生徒の進路をめぐる環境は大きく変化している。厚生労働省の調査（平成24年10月）によると、平成21年度新規学卒者の就職後3年以内の離職率は、新規中卒者64.2%、新規高卒者35.7%、新規大卒者28.8%に達していて、平成4年度以後ほとんど変わっていない。このような実態も踏まえ、平成11年12月に出された中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善」において「キャリア教育」という文言が公的に登場し、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」と定義された。さらに、「キャリア教育の実施に当たっては家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、

学校ごとに目的を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある」と提言された。

この答申を受けて国立教育政策研究所生徒指導研究センターが出した「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」では、「職業観・勤労観の育成が不可欠な『時代』を迎えた」とし、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」が示され、その中に「職業的（進路）発達に関わる諸能力（4領域8能力）」

【資料1】が設定された。さらに、平成11年に示されたキャリア教育の定義が、進路を選択することに重点が置かれていると解釈されていたことから、平成16年に文部科学省から出された「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」では、キャリア教育の定義が「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育（端的には勤労観・職業観を育てる教育）」と修正され、「4領域8能力」と合わせて示された。

このような経緯を踏まえた上で、平成18年12月に改正された教育基本法には、教育の目標の一つとして「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」が盛り込まれた。さらに、平成19年6月に改正された学校教育法には、義務教育の目標の一つとして「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」が規定され、高等学校の目的に「心身の発達及び進路に応じて教育を施すこと」が規定された。これらのことが、今日、キャリア教育を推進する上での法的根拠となっている。これによって、平成20年1月に出された中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」では、「子どもたちの発達の段階に応じて、学校の教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育の充実に取り組む必要がある」と示された。

さらに、平成23年1月に出された中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、

「社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力を育成することが求められていることを強く意識する必要がある」と述べられ、キャリア教育の定義も【資料2】のように修正された。また、修正された定義を踏まえ、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力として、

「基礎的・汎用的能力」（p.3【資料3】、p.3【資料4】）が示された。「基礎的・汎用的能力」の具体的内容については、仕事に就くことに焦点を当て、実際の行動に表れるという観点から、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4

#### 【資料1 職業的（進路）発達に関わる諸能力】

人間関係形成能力	○自他の理解能力 ○コミュニケーション能力
情報活用能力	○情報収集・探索能力 ○職業理解能力
将来設計能力	○役割把握・認識能力 ○計画実行能力
意思決定能力	○選択能力 ○課題解決能力

「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」（平成14年11月国立教育政策研究所生徒指導研究センター）より作成

#### 【資料2 キャリア・キャリア教育・キャリア発達の定義】

##### キャリア

人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね

##### キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

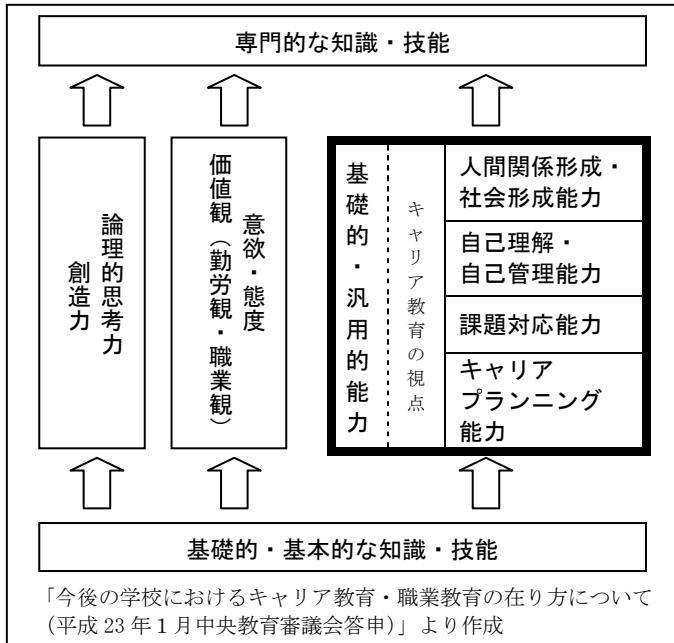
##### キャリア発達

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

つの能力に整理された。それに伴い、前述の「4領域8能力」が「基礎的・汎用的能力」に移行されることになった。

以上のような背景から、キャリア教育の推進が一層重視されてきたことに伴い、本研究を進めることになった。

【資料3 学校から社会・職業への移行に必要な要素】



【資料4 基礎的・汎用的能力の具体的要素】

人間関係形成・社会形成能力	○他者の個性を理解する力 ○他者に働きかける力 ○コミュニケーション・スキル ○チームワーク ○リーダーシップ
自己理解・自己管理能力	○自己の役割の理解 ○前向きに考える力 ○自己の動機付け ○ストレスマネジメント ○主体的行動 ○忍耐力
課題対応能力	○情報の理解・選択・処理 ○本質の理解 ○原因の追究 ○課題発見 ○計画立案 ○実行力 ○評価・改善
キャリアプランニング能力	○学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 ○多様性の理解 ○将来設計・選択 ○行動と改善

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (平成23年1月中央教育審議会答申)」より作成

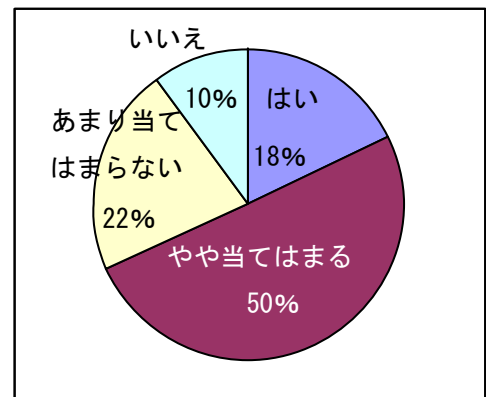
## 2 研究の目的

本研究を進めるにあたり、社会的・職業的自立について、愛知県内の児童生徒の実態を把握しておくことが必要であると考へ、研究協力委員の学校の中学生・高校生を対象に【資料5】のようなアンケートを実施した。その結果、「はい」「やや当てはまる」と回答した生徒を合わせた「将来働くことに不安を感じている生徒」の割合は、全体の7割近くに上ることが分かった。そして、【資料6】は、【資料5】において「将来働くことに不安を感じている生徒」を対象にとったアンケート調査の結果である。ここでは、「希望と現実の差」「人間関係」に不安をもつ生徒が半数以上占めていることが分かる。

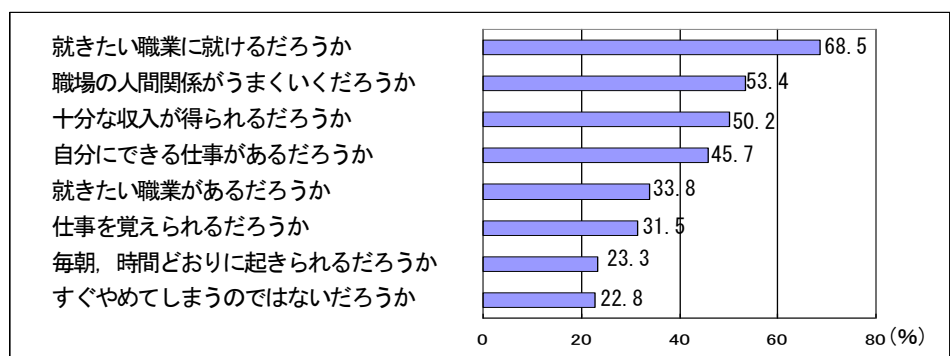
また、p.4【資料7】からは、新社会人に求める力として、「コミュニケーション能力」「主体性」「協

調性」を重視している企業等が多いことが読み取れる。すなわち、児童生徒にとって不安理由になっている人間関係形成能力の高い人材が、企業等からは求められる傾向が強いことが分かる。

【資料5 「将来働くことが不安ですか」】

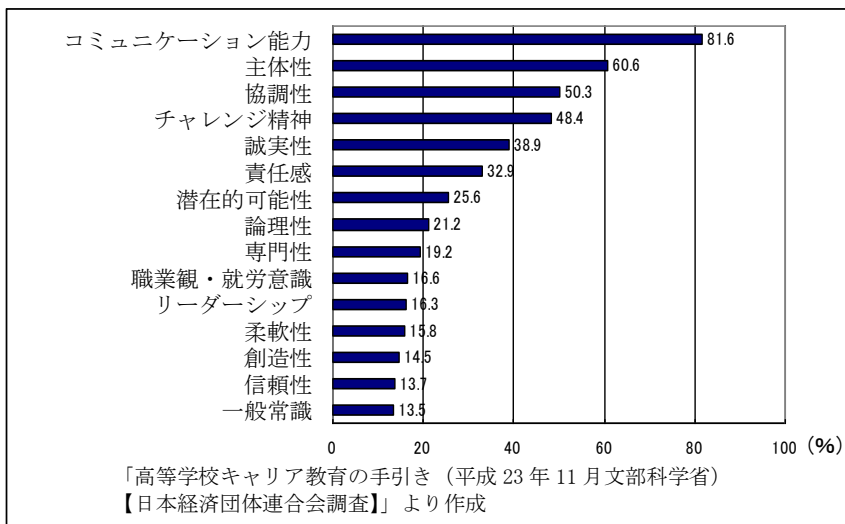


【資料6 「将来働くことでどんなことが気がかりですか」】



さらに、自分の現在の生活と照らし合わせて将来の夢や目標を描く際に、「希望と適性の差」に気づき悩む児童生徒が多いことが考えられる。しかし、将来の夢や目標の選択肢を多くもつことができれば、このような悩みを乗り越えやすくなると考える。そのためには、小学生の時期から、日常生活における多様な役割や働くことの意義を発達段階に応じて理解し、自己の果たすべき役割についての認識を深めていく力を養う必要があると考えた。

【資料7 平成22年3月卒業者の採用選考の際にあたって特に重視した点】



以上の点から、県内の児童生徒が社会的・職業的に自立できる力を育成するために、基礎的・汎用的能力の中で「人間関係形成・社会形成能力」「キャリアプランニング能力」が重要であると考え、これらの能力の向上を図ることを目的とした。

### 3 研究の方法

- (1) 「人間関係形成・社会形成能力」「キャリアプランニング能力」の向上を図る手だてを考え、指導案を研究協力委員と所員とが共同で作成して授業実践・研究を行う。
- (2) 研究の実践前から実践後に至る児童生徒の基礎的・汎用的能力の変容を調べ、研究の成果と課題について検証・考察する。

### 4 研究の内容

#### (1) 手だての実際

ア 「人間関係形成・社会形成能力」を向上させるための手だて

(ア) 授業における児童生徒同士の関わり合いの仕方を工夫する。

- ・児童生徒の実態に合わせた関わり合いの場を設定する。
- ・授業や活動を通じて、学んだり考えたりしたことを人に伝える際の支援の仕方を工夫する。
- ・話を聞く際の支援の仕方を工夫する。
- ・振り返りの仕方を工夫する。

(イ) 地域の人々との連携活動の充実を図る。

- ・学校や地域の実態に応じ、児童生徒同士または児童生徒と大人が関わる活動を取り入れる。
- ・活動計画や振り返りの段階において、連携に関わる人との接し方について考える場を設定する。

イ 「キャリアプランニング能力」を向上させるための手だて

(ア) 過去に活動したり考えたりした内容について振り返らせ、気付いた点を今後の生活に生かす方法を考えさせながら、人の役に立つことの必要性に迫る授業や活動の計画を立てる。

(イ) 地域に根ざした素材を利用し、地域の一員であるという自覚をもつことのできる授業や活動

を計画する。

(ウ) (ア), (イ)に関

わる内容がひと目で分かるような年間指導計画

(キャリアカレンダー)を作成する【資料8】。

ウ 児童生徒の基礎的・汎用的能力の変容を調べるための指導案, 教材, アンケートの工夫

(ア) 指導案の「指導上の留意事項」の欄に, 評価する基礎的

・汎用的能力の項目と, それを見取る児童生徒の活動内容や教材を記す【資料9】。

・身に付けさせたい基礎的・汎用的能力とそれを支える要素の両方をゴシック体で記す。

・教科の評価の観点と見取る内容については, 明朝体で記す。

(イ) 教師が変容を調べやすくするだけでなく, 児童生徒にも自分の成長に気付きやすくさせるため, プリントや振り返りカード等記録を残せる教材を用意する。

(ウ) 研究の実践前と実践後の変容を分かりやすくするため, 【資料10】のようなアンケートを実施したり, 抽出児童生徒の様子を調べたりする。

(2) 各学校の実践概要

ア 蟹江町立須西小学校

第6学年総合的な学習の時間「知ろう 考えよう よのな科」の実践を紹介する。地域で働く人と関わりながら, 仕事を見学したり体験したりする活動をきっかけにして, 校内夏祭りの企画を考える中で, 働くことの意義や役割を果たすことの重要性の理解を深める実践を行った。

【資料8 キャリアカレンダー例】

期 月	前 期					後 期					
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
一年	「中学生になって」	デイキャンプ	国語「分かりやすく説明しよう」	部活動激励会	体育大会	自分を知る	文化祭合唱コンクール	はあどろじえくと	働く人々の仕事と働き方	名古屋分教学習	「反省と2年生の準備」
	新年度の具体的な目標を考える。	仲間と協力し、よりよい集団にしていこうとする意欲を高める。	説明する観点を決めて、分かりやすく伝える方法を考える。	自分の役割を分かって、仲間と協力する態度を育てる。	目標に向かって、仲間と協力することの大切さを知る。	自分の個性を理解しようとする気持ちが高まる。	一人一人が役割を果たし、目標を実現しようとする気持ちが高まる。	地域のお年寄りとの交流を促して、地域での自分の役割への認識を深める。	身近な人の仕事について調べ、「働くこと」への理解を深める。	自分たちの力で計画し、実行する力を高める。	自分を見つめ直し、来年度に向けての目標をもつ。
二年	「2年生になって」	職場体験学習	国語「紹介しよう / 子キな仕事」	部活動激励会	体育大会	自分を知る	文化祭合唱コンクール	はあどろじえくと	自然教室	進路計画の検討と吟味	「反省と3年生の準備」
	新年度の具体的な目標を考える。	働くことの意義や働く人の思いについて理解を深める。	分かりやすく伝える方法を考え、発表する。	自分の役割を分かって、協力しようとする態度を育てる。	目標に向かって、仲間と協力することの大切さを知る。	自分の個性を理解しようとする気持ちが高まる。	一人一人が役割を果たし、目標を実現しようとする気持ちが高まる。	地域のお年寄りとの交流を促して、地域での自分の役割への認識を深める。	自分たちの力で計画し、実行する力を高める。	自分らにさわしい進路について考え、進路計画の見直しをする。	自分を見つめ直し、来年度に向けての目標をもつ。
三年	「3年生になって」	修学旅行	上級学校について調べる	進路先について知る	体育大会	国語「自分の魅力を伝えよう」	文化祭合唱コンクール	はあどろじえくと	受験準備と試験の受け方	就職や進学の手続き	卒業にあたって
	新年度の具体的な目標を考える。	企業訪問を通して、職業についての理解を深める。	進路選択に必要な情報を集める。	学校説明会や体験入学を通して、上級学校について知る。	目標に向かって、仲間と協力することの大切さを知る。	記者会見型スピーチを通して自分の魅力を伝える方法を考える。	一人一人が役割を果たし、目標を実現しようとする気持ちが高まる。	地域のお年寄りとの交流を促して、地域での自分の役割への認識を深める。	進路の最終選択をし、受験に備える。	面接練習を通して、自己PRについて考える。	卒業後の生活に向けての抱負を書く。

【資料9 指導案上での評価項目の記載例】

<p>(2) グループで探検して分かったことや知らせたいことを, みんなに伝える方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵や写真で説明する。</li> <li>・学んできたことを劇にしたり, ごっこ遊びにしたりして知らせる。</li> </ul> <p>(3) グループごとに報告の仕方を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○役割分担をする。</li> <li>○話す練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなに分かりやすく伝えるように工夫させる。</li> <li>・分かりやすく伝えるための具体的な方法を考えさせる。</li> </ul> <p><b>キャリア教育の評価項目はゴシックで記載</b></p> <p>評検報告会の練習の様子から, 「人間関係形成・社会形成能力(チームワーク)」を評価する。…<b>手だてA, L</b></p>
<p>第10時 探検報告会をする。</p> <p>(1) グループごとに報告する。</p> <p>(2) 質問する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く人を意識させ, 声の大きさ, 立つ位置等にも注意させる。</li> <li>・質問コーナーを設け, 他のグループの発表も興味をもって聞くようにさせる。</li> </ul> <p>評検報告会の練習の様子, 発表内容から「思考・表現」を評価する。…<b>手だてC, K</b></p>

【資料10 キャリア教育アンケート】

能力	項目	評価
人間関係形成・社会形成能力	他者の個性について理解している。	4 3 2 1
	他者に配慮しながら自分の考えを伝えている。	4 3 2 1
自己理解・自己管理能力	礼儀正しく他者と接している。	4 3 2 1
	自分自身の長所について理解している。	4 3 2 1
課題対応能力	自分から進んで行動している。	4 3 2 1
	辛抱強く課題に取り組むために, 自分の感情をコントロールしている。	4 3 2 1
キャリアプランニング能力	課題の解決に必要な情報を, 適切に選択している。	4 3 2 1
	課題の解決に向けて, 適切な計画を立てている。	4 3 2 1
	課題の解決に向けた計画及び活動を, 必要に応じて改善している。	4 3 2 1
キャリアプランニング能力	働くことの意義や役割について理解している。	4 3 2 1
	自分の生活と将来の生き方との関連性について理解している。	4 3 2 1
	将来の自分についての見通しを立てている。	4 3 2 1

4…できている  
3…どちらかといえばできている  
2…どちらかといえばできていない  
1…できていない

#### イ 東浦町立生路小学校

第2学年生活科「町で見つけたよ」の実践と第4学年社会科「ごみのゆくえ」の実践を紹介する。町の施設を探検して働く人の様子を調査する活動を通して、働く人が心がけている工夫や地域の一人として自分たちにもできることを考える実践を行った。

#### ウ 江南市立宮田中学校

小中学校連携活動の実践について、中学生と小学生の連携、中学校と家庭・地域との連携、教師同士の連携の3つの視点から紹介する。小学生や家庭・地域との連携を見据えた実践では、第2学年「働くことについて考えよう」の学習内容を紹介する。この単元では、中学校第2学年の生徒が職場体験活動を通して学んだことを、校区の小学校第6学年の児童に伝える場を設定した。小学生に伝える活動に向けて、リハーサルを実施しながら中学生同士で発表を聞いて評価し合い、改善する活動も取り入れた。

#### エ 蒲郡市立西浦中学校

第3学年国語科「パネルディスカッションで考えを深めよう」の実践と第2学年国語科「紹介しよう！ステキな仕事人 ～プレゼンテーション～」の実践を紹介する。パネルディスカッションを通して東日本大震災や阪神・淡路大震災の教訓を地域に置き換えて考えたり、プレゼンテーションを通して地域で働く人の中で最も印象に残った人について調べたことを発表したり聞いたりする活動を取り入れながら、将来の生き方について考える実践を行った。

#### オ 愛知県立尾西高等学校

第1学年総合的な学習の時間「中高連携清掃活動」の実践と第2学年総合的な学習の時間「ジュニアインターンシップ」の実践を紹介する。「中高連携清掃活動」の実践では地域の中学校と連携して清掃活動に取り組み、「ジュニアインターンシップ」の実践では地域の職場で就業体験活動に取り組んだ。それらの活動について振り返り、関わり合いの中で改善点を出し合いながら、それを次の活動に生かす方法を考える実践を行った。

## 5 研究のまとめと今後の課題

### (1) 成果

#### ア 人間関係形成・社会形成能力の向上

児童生徒同士が自分の考えを伝え合う活動を取り入れた授業では、グループ活動、ポスターセッション、パネルディスカッション等の発表形態やワークシート、振り返りカード、付箋紙等の教材、教具を工夫してきた。また、地域を中心とした連携活動として、地域の方や職場の方と関わる場面、小学生と中学生、中学生と高校生が、それぞれ合同で活動する場面を設定してきた。

このように、児童生徒が相互に関わり合う方法を工夫したり、地域との連携を積極的に図ったりする授業や活動を通して、相手に応じた接し方を心がけたり、仲間と協力したりする児童生徒の姿が多く見られるようになった。p.10【資料12】の教職員を対象にしたアンケート結果を分析する限り、「他者の個性について理解している」「他者に配慮しながら自分の考えを伝えている」「礼儀正しく他者と接している」の3項目において、「できている」または「どちらかといえばできている」と回答した割合が大きく伸びている。また、p.9【資料11】の児童生徒を対象にしたアンケート結果については、平成24年度のみデータであるため、教職員を対象にした場合よりも数値の変化は感じられないが、「他者の個性について理解している」の項目において「できている」と回答した割合が3%、「礼儀正しく他者と接している」の項目においては「どちらかといえばできている」と回答した割合が3%増加している。

以上の点から、人間関係形成・社会形成能力が高まりつつあると考えられる。

## イ キャリアプランニング能力の向上

本研究では、職場見学、職場体験、清掃活動、防災対策等地域に根ざした素材を取り入れた実践をしてきた。そして、毎時間の授業の最後や体験活動の後に振り返り活動を行ってきた。その後、振り返った内容をグループや学級全体で共有し合う場を設定したことにより、地域や職場の一員として働くことが周囲の人のためになることに気付き、果たすべき役割を遂行することの大切さを理解することができるようになってきた。

p. 16【資料 18】の教職員を対象にしたアンケート結果を分析する限り、「働くことの意義や役割について理解している」という項目において、「できている」「どちらかといえばできている」のいずれかを回答した割合が大幅に増加している（平成 23 年度は 28%，平成 24 年度は 67%）。そのため、児童生徒の働くことについての理解や役割意識の高まりについて、手ごたえを感じている教職員が増えていると捉えている。また、p. 15【資料 17】の児童生徒を対象にしたアンケート結果については、人間関係形成・社会形成能力に関するアンケート（p. 9【資料 11】）同様、教職員を対象にした場合よりも数値の変化は感じられないが、「働くことの意義や役割について理解している」という項目について「できている」と回答した割合が 5%増加している。

以上の点から、人の役に立つことの必要性を実感できるような活動を設定してきたことにより、キャリアプランニング能力が向上しつつあると考えられる。

## ウ キャリア教育に対する意識の向上

p. 13【資料 15】、p. 14【資料 16】のアンケート結果を分析する限り、基礎的・汎用的能力のうち、課題対応能力も向上しつつあることが読み取れる。児童生徒を対象にしたアンケート結果（p. 13【資料 15】）では、「課題の解決に必要な情報を、適切に選択している」という項目について「できている」「どちらかといえばできている」のいずれかを回答した割合が 5%，「課題の解決に向けて、適切な計画を立てている」という項目については 3%，「課題の解決に向けた計画及び活動を、必要に応じて改善している」という項目については 2%増加している。そのため、課題対応能力の向上については、自分なりに手ごたえを感じつつある児童生徒が増えていると考えられる。

また、アンケート結果と、学校独自で作成したキャリアカレンダーを基に全校体制でキャリア教育に取り組んできたことから、キャリア教育に対する意識が高まりつつある教職員が増えていると感じられる（p. 10【資料 12】、p. 12【資料 14】、p. 14【資料 16】、p. 16【資料 18】参照）。

### (2) 今後の課題

基礎的・汎用的能力のうち、自己理解・自己管理能力については、さほど大きな変容を感じ取ることができなかった。p. 11【資料 13】の児童生徒を対象にしたアンケート結果を分析する限り、「自分から進んで行動している」という項目について「できている」「どちらかといえばできている」のいずれかを回答した割合が 1%，「辛抱強く課題に取り組むために、自分の感情をコントロールしている」という項目については 3%減少している。このような現状を踏まえ、自己肯定感を高めたり自律する力を向上させたりするようなキャリア教育の在り方を考えていく必要性を感じる。

今後は、基礎的・汎用的能力をバランスよく意識的に高めることも視野に入れながら、児童生徒の職業的・社会的自立を更に促すような実践研究を行いたいと考えている。

## 6 おわりに

今後、学校では、これまで長年行われてきた教育活動をキャリア教育の視点から見直す機会を設定し、児童生徒の実態に応じた手だてを講じることが求められている。本研究は、国語科、社会科、生活科、

総合的な学習の時間と連携した実践が中心であったが、他の教科や教育活動と連携してキャリア教育を実践する方法も可能である。そのため、各学校でキャリア教育の視点を盛り込んだ年間指導計画を立て、教師が意識して指導、支援することが必要である。

最後に、実際の授業を参観していただくなど熱心にご指導、ご助言いただきました高綱睦美先生に心よりお礼申し上げたい。尚、本研究を推進する上で参考にさせていただいた高綱先生ご執筆の文献の書籍等を下記に掲載し、本研究をおわりとしたい。

#### ※引用・参考文献

##### <高綱先生が執筆に関わった文献>

『産業教育・職業教育学ハンドブック』 日本産業教育学会編 大学教育出版 2013.1

『教育再生のためのグランドレビュー キャリア教育の実践的推進』

仙崎武・藤田晃之・三村隆男・鹿嶋研之助・池場望・下村英雄編著 社団法人 雇用問題研究会  
2008.3

『小学校の職業意識とキャリアガイダンス』 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

旧日本労働研究機構 (JIL) 資料シリーズ 2003.3

##### <その他の文献>

『小学校キャリア教育の手引き<改訂版>』 文部科学省 2011.5

『中学校キャリア教育の手引き』 文部科学省 2011.5

『高等学校キャリア教育の手引き』 文部科学省 2011.11

『中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申)』

文部科学省 2011.1

『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』

文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2011.3

『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)』

文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2002.11

『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』 文部科学省 2004.1

『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)』

文部科学省 2008.1

『小中学校9年間を見通したキャリア教育』 愛知県義務教育問題研究協議会 2011.3

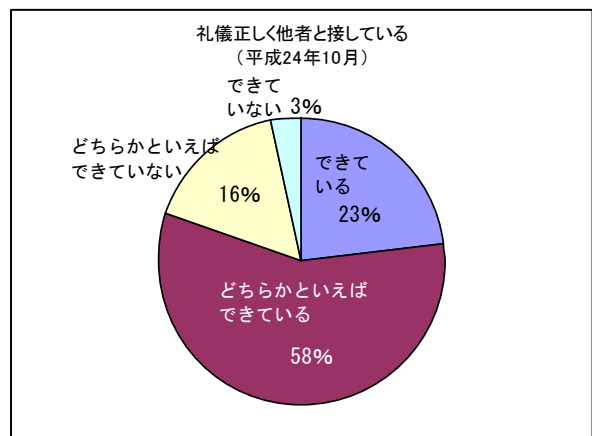
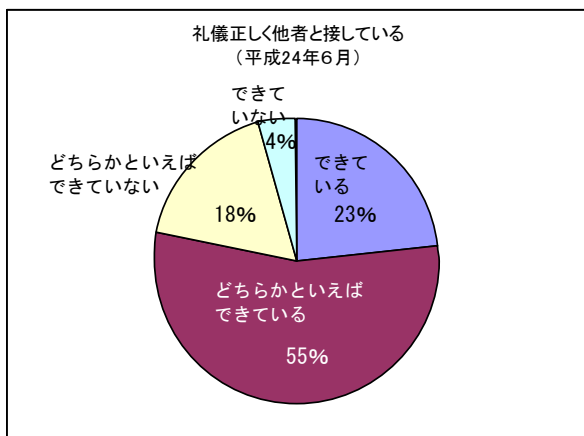
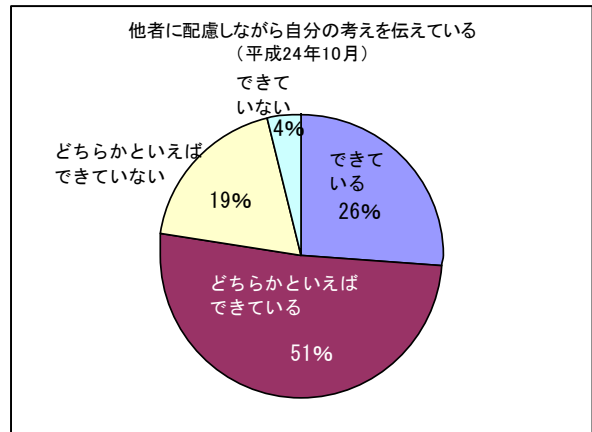
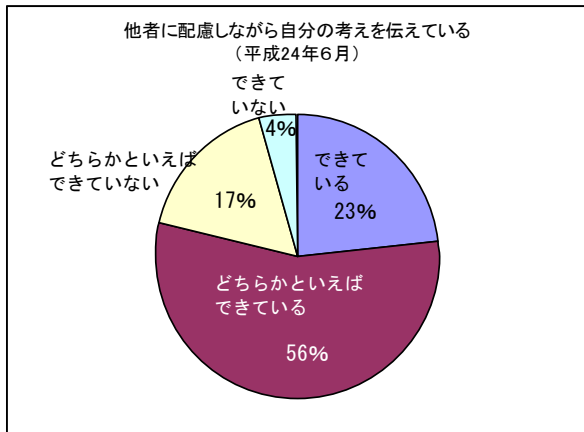
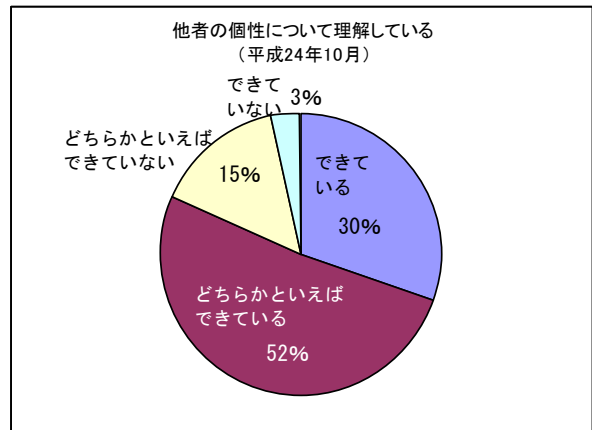
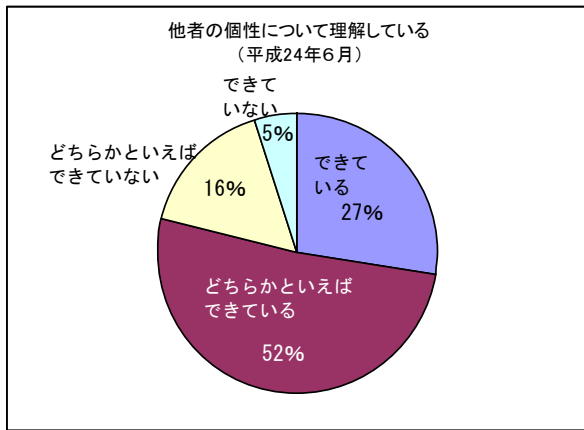
『キャリア教育ノート(夢を見つけ夢をかなえる航海ノート)』 愛知県教育委員会 2012.2

『キャリア教育コーディネーター 新たな教育作りの仕掛け人』

一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 著 学校法人河合塾 2011.11



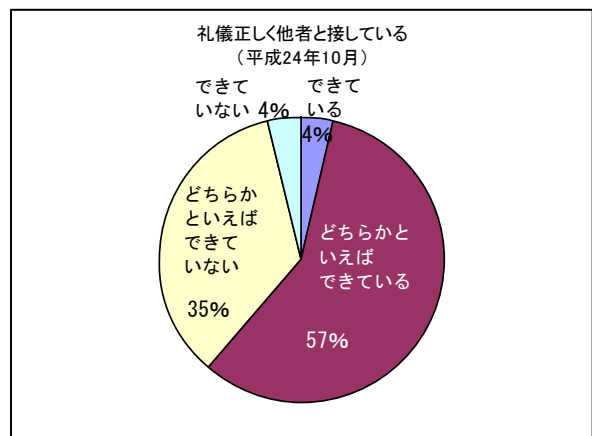
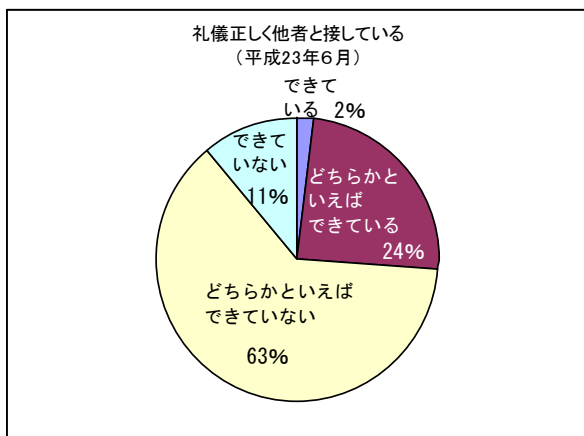
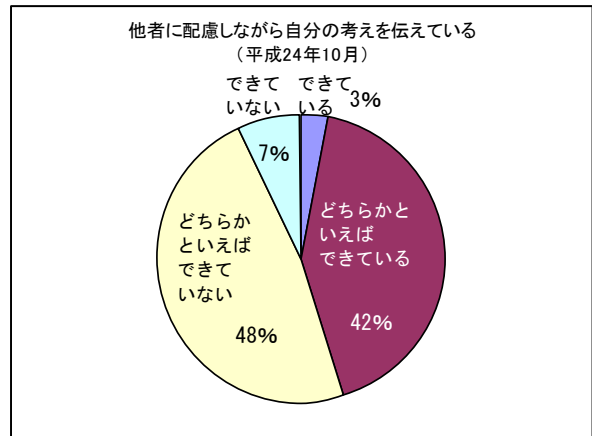
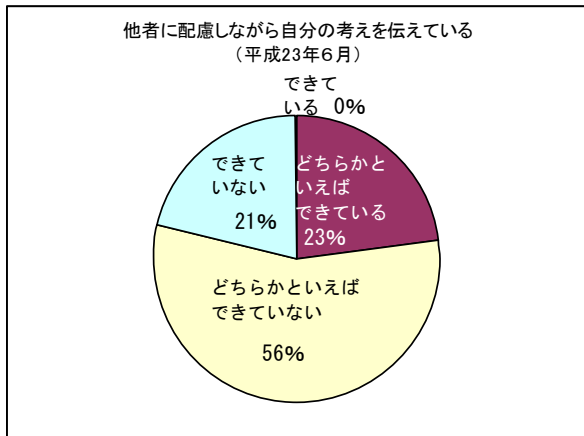
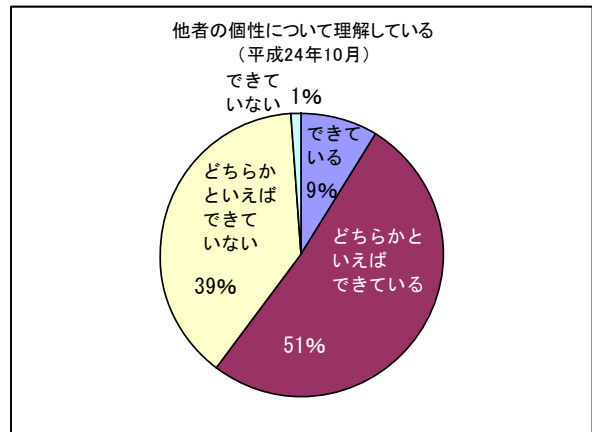
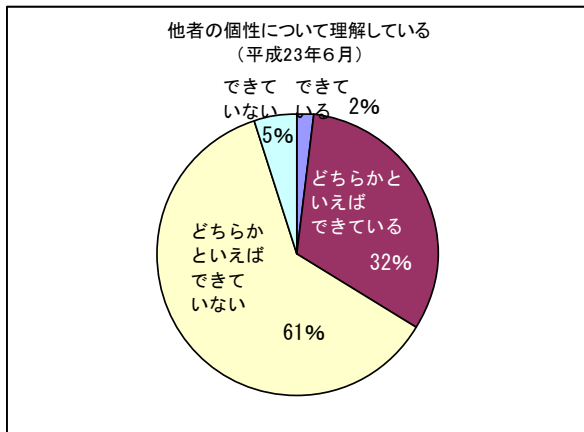
【資料 11 キャリア教育アンケート「人間関係形成・社会形成能力(研究協力委員所属校児童生徒対象)」】



対象人数(6月)  
小学校…227名, 中学校…178名, 高等学校…133名

対象人数(10月)  
小学校…229名, 中学校…174名, 高等学校…127名

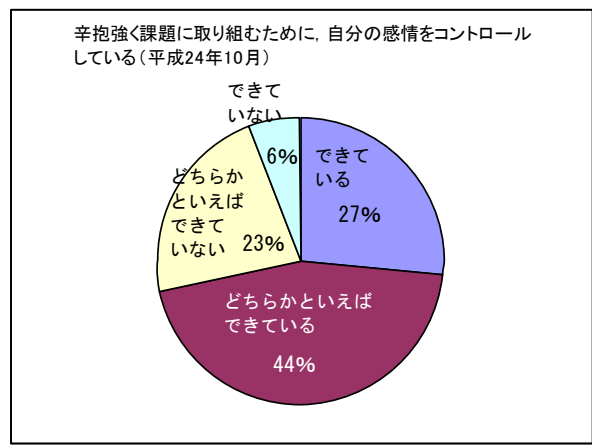
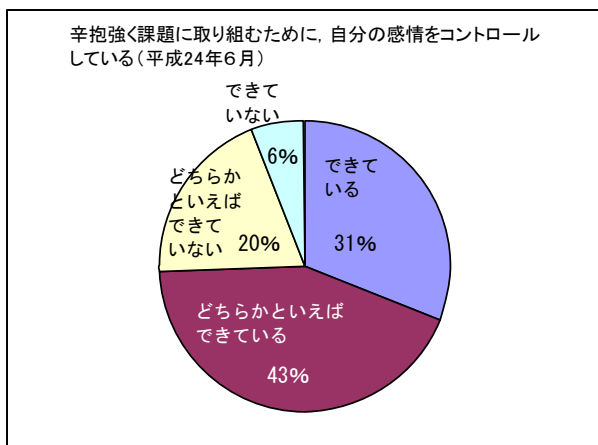
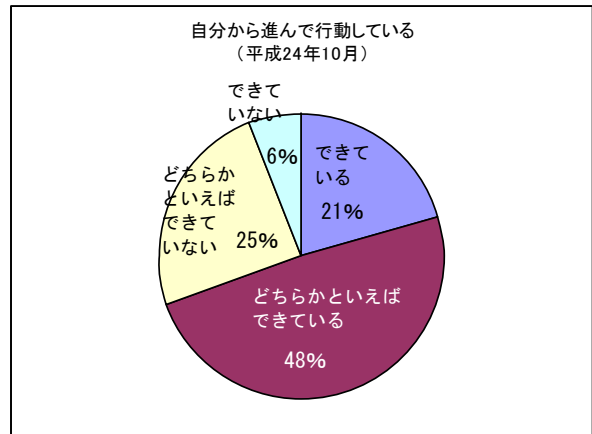
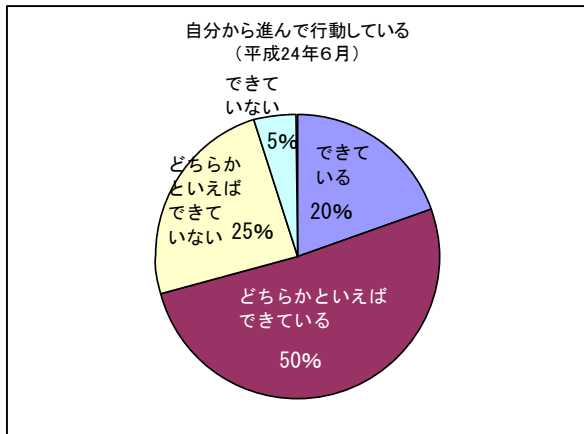
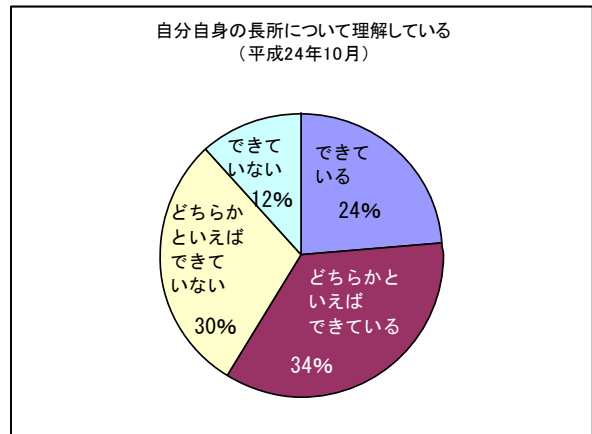
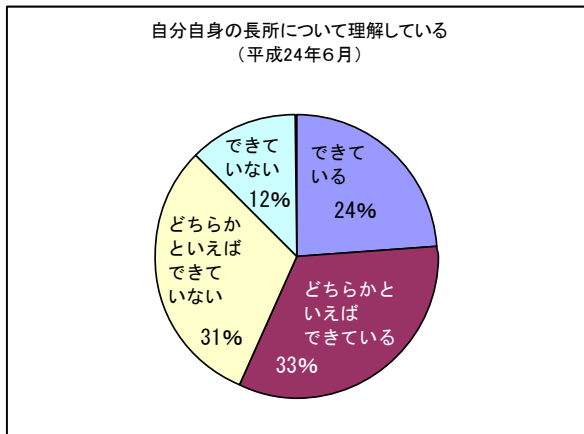
【資料 12 キャリア教育アンケート「人間関係形成・社会形成能力（研究協力委員所属校教職員対象）」】



対象人数（平成23年度6月）  
小学校…31名、中学校…20名、高等学校…11名

対象人数（平成24年度10月）  
小学校…33名、中学校…25名、高等学校…11名

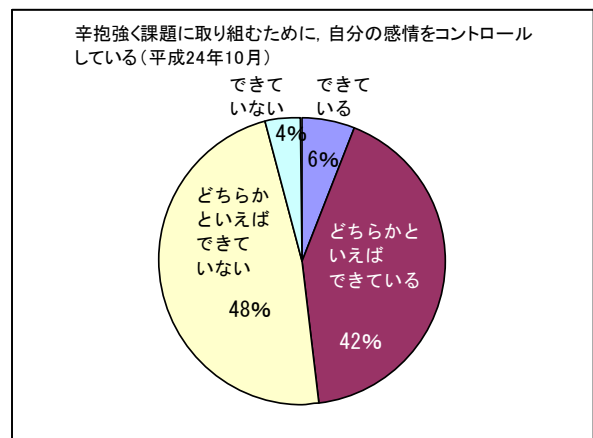
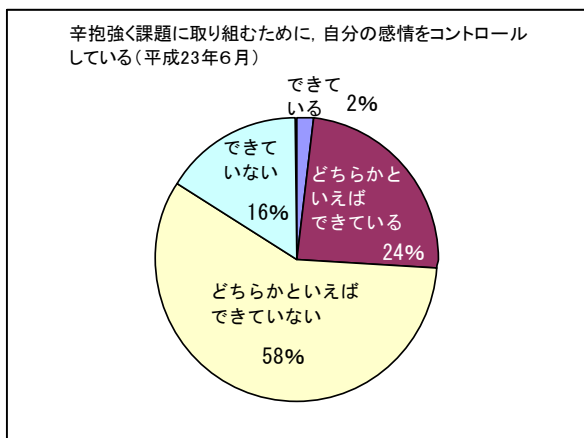
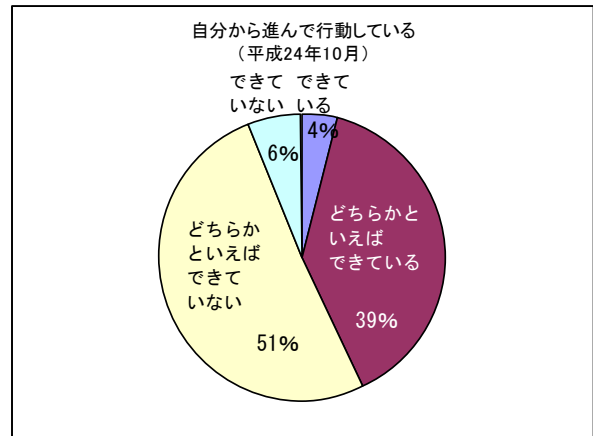
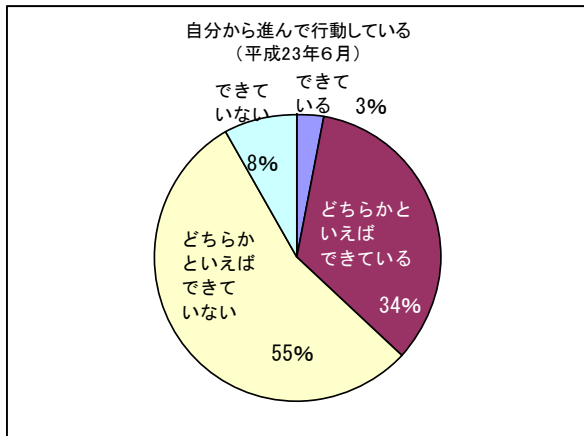
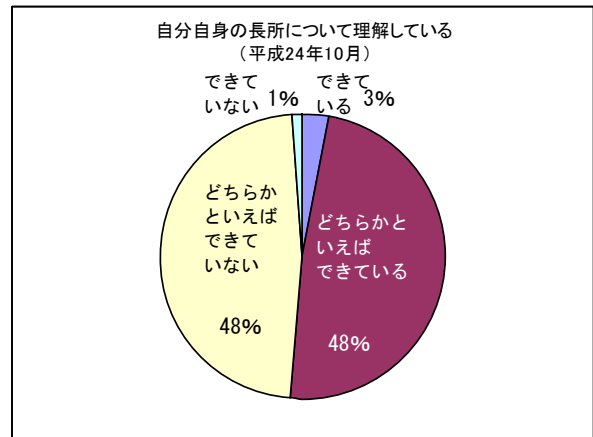
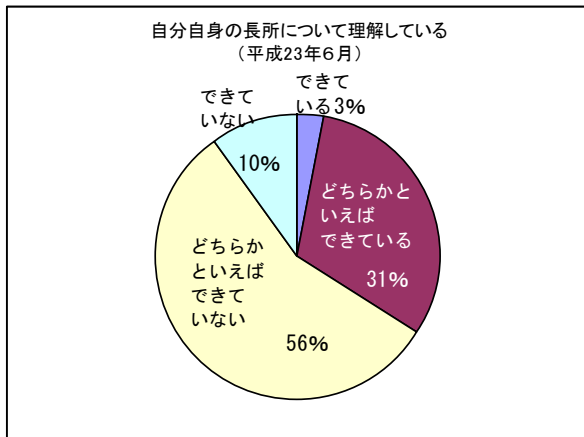
【資料 13 キャリア教育アンケート「自己理解・自己管理能力（研究協力委員所属校児童生徒対象）」】



対象人数（6月）  
小学校…227名，中学校…178名，高等学校…133名

対象人数（10月）  
小学校…229名，中学校…174名，高等学校…127名

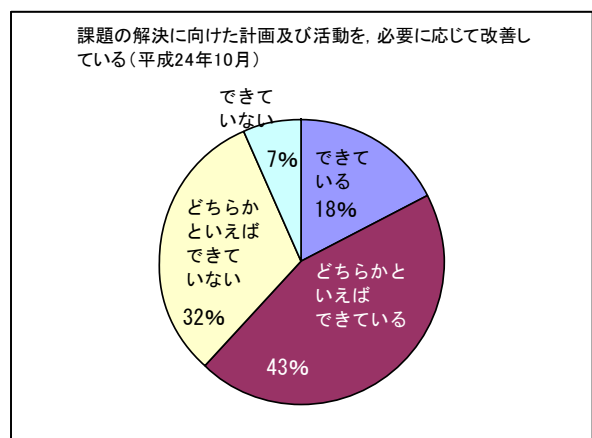
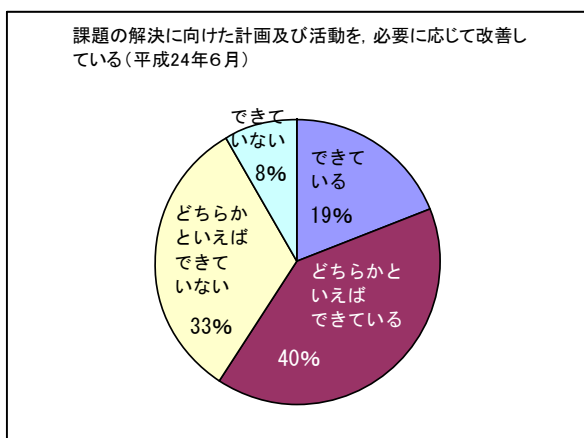
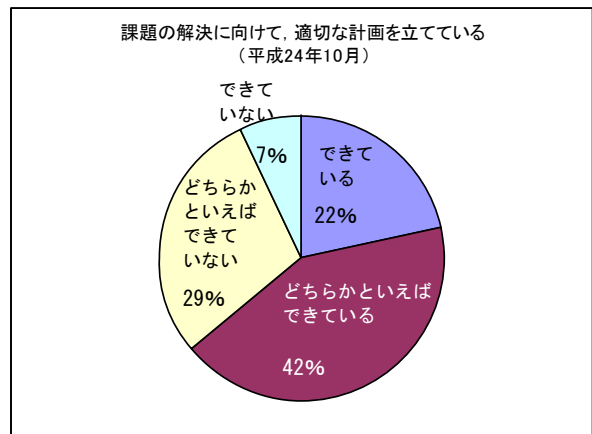
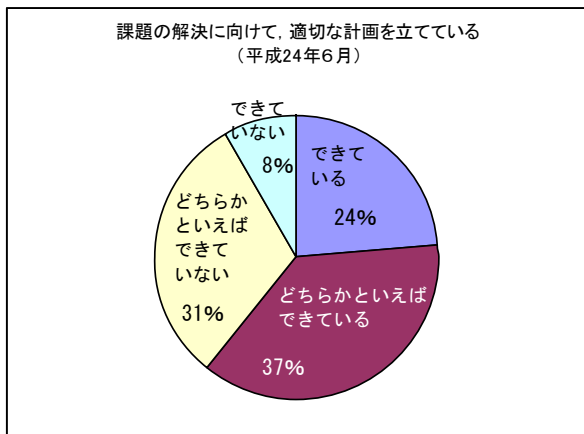
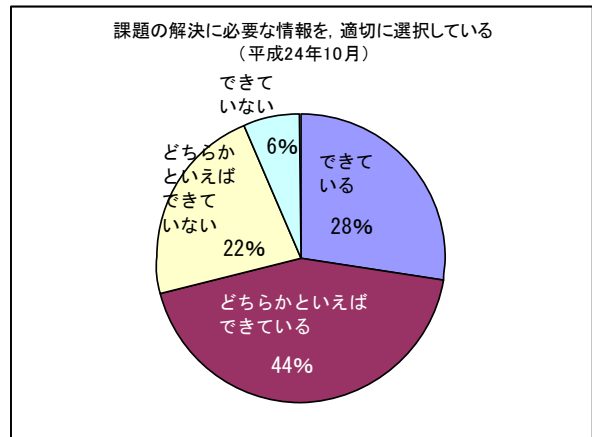
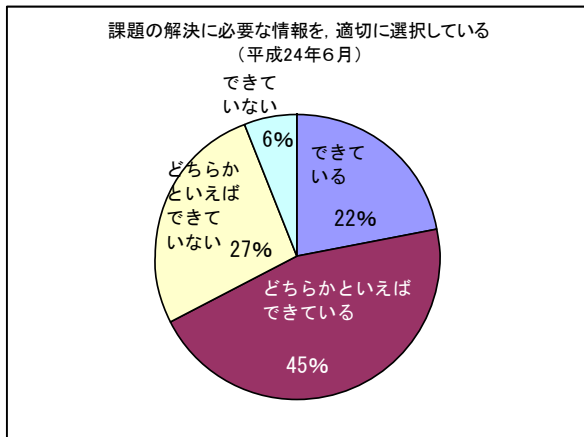
【資料 14 キャリア教育アンケート「自己理解・自己管理能力（研究協力委員所属校教職員対象）」】



対象人数（平成 23 年度 6 月）  
小学校…31 名，中学校…20 名，高等学校…11 名

対象人数（平成 24 年度 10 月）  
小学校…33 名，中学校…25 名，高等学校…11 名

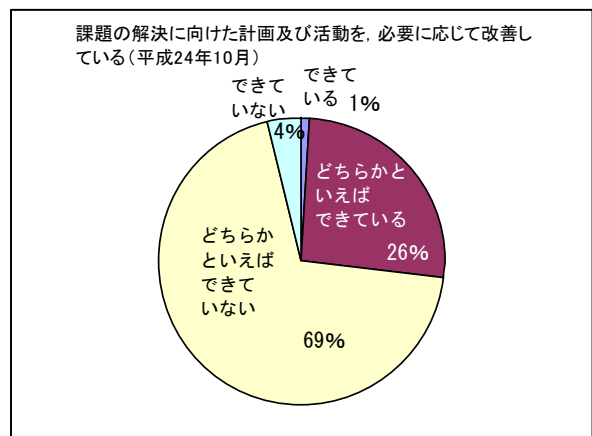
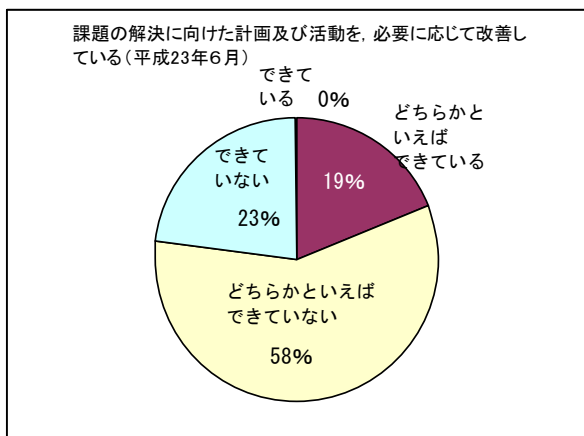
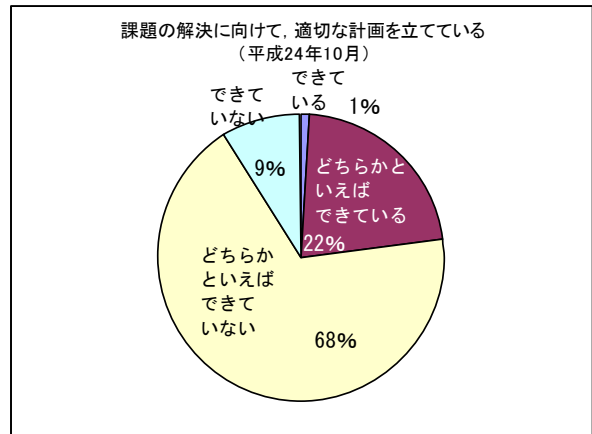
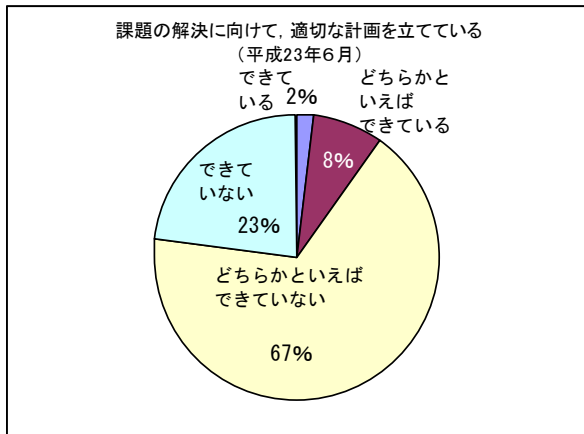
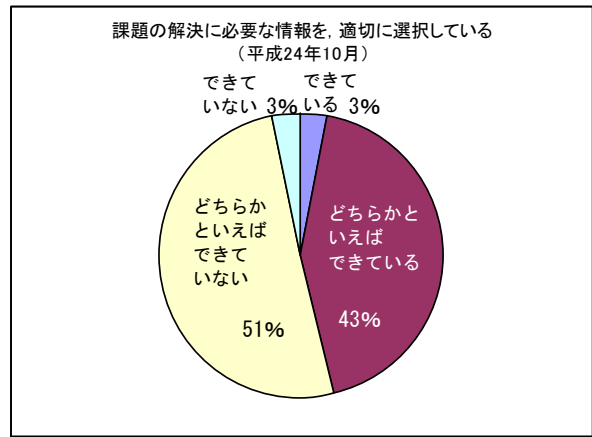
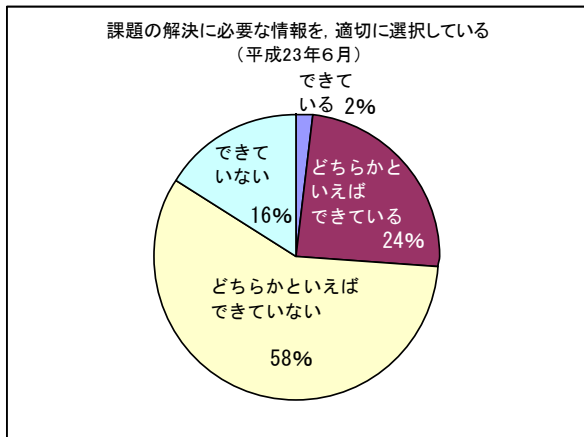
【資料 15 キャリア教育アンケート「課題対応能力（研究協力委員所属校児童生徒対象）」】



対象人数（6月）  
小学校…227名、中学校…178名、高等学校…133名

対象人数（10月）  
小学校…229名、中学校…174名、高等学校…127名

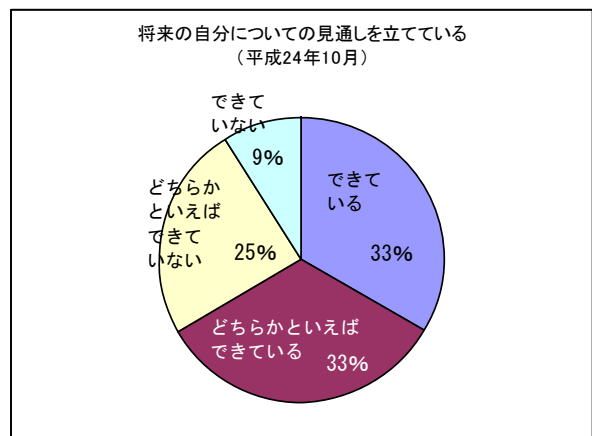
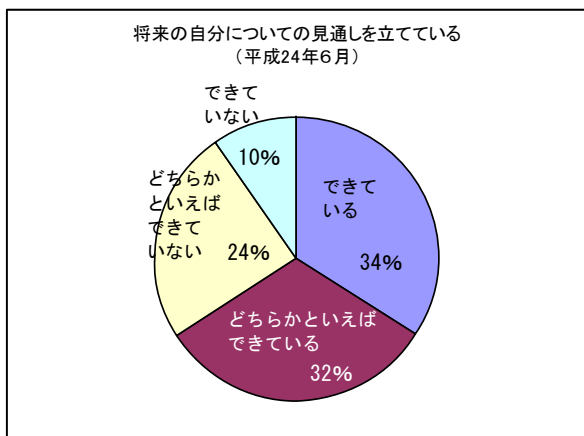
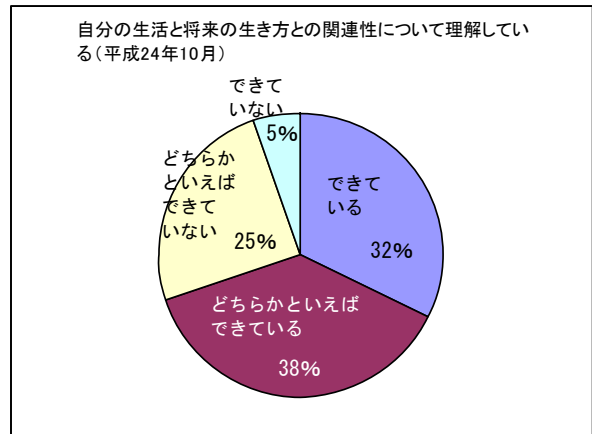
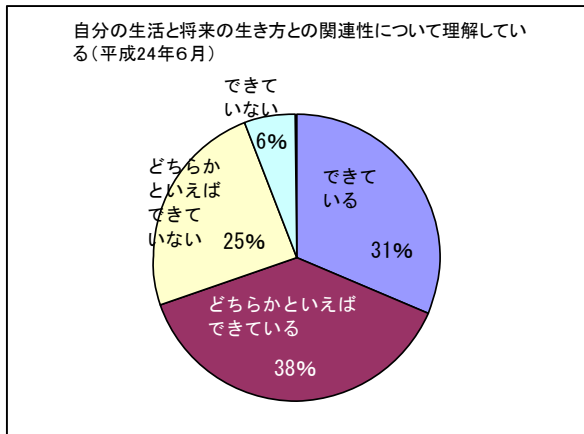
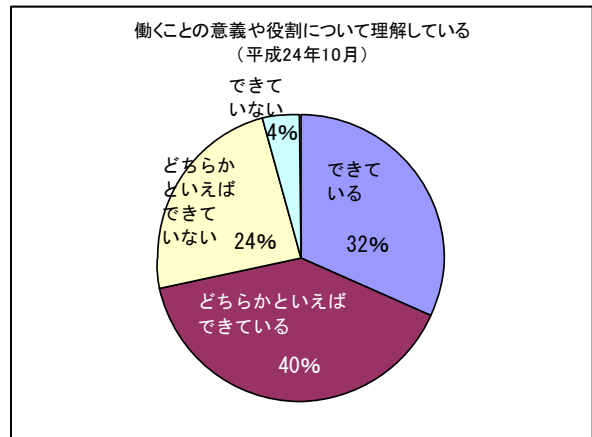
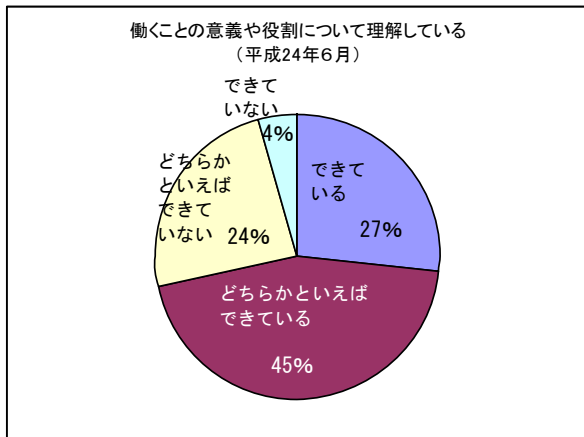
【資料 16 キャリア教育アンケート「課題対応能力（研究協力委員所属校教職員対象）」】



対象人数（平成23年度6月）  
小学校…31名、中学校…20名、高等学校…11名

対象人数（平成24年度10月）  
小学校…33名、中学校…25名、高等学校…11名

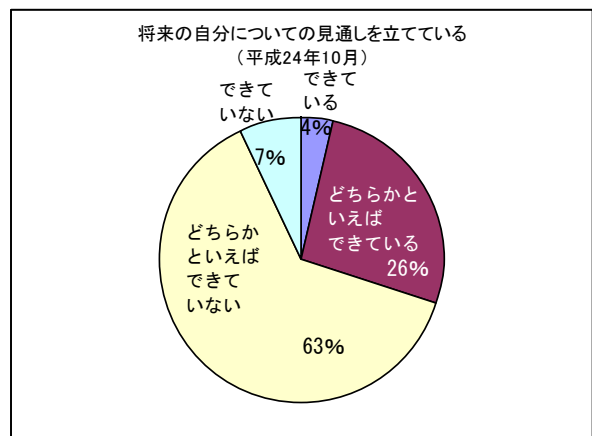
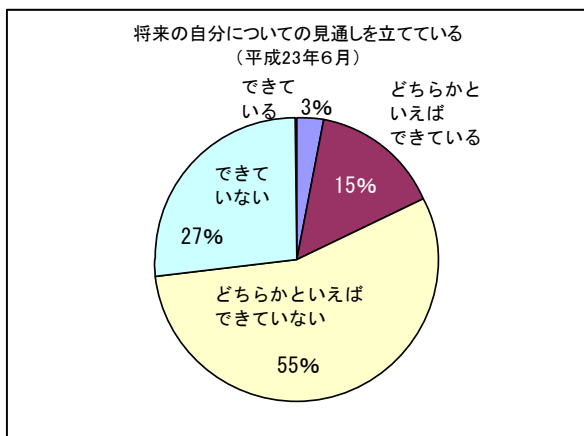
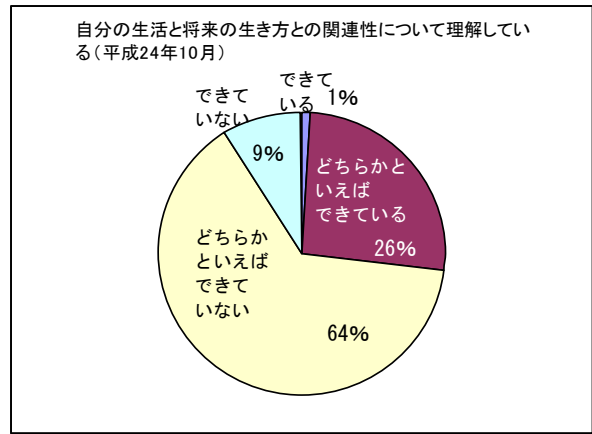
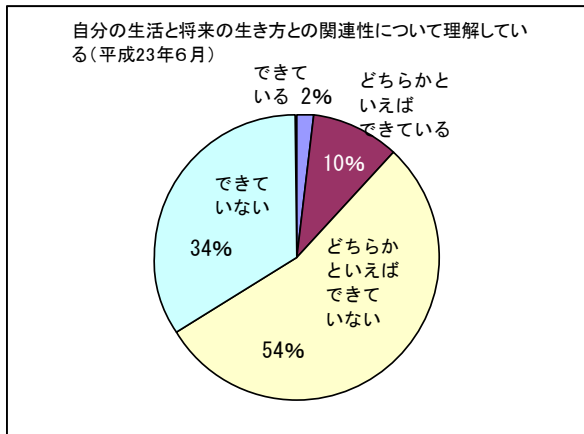
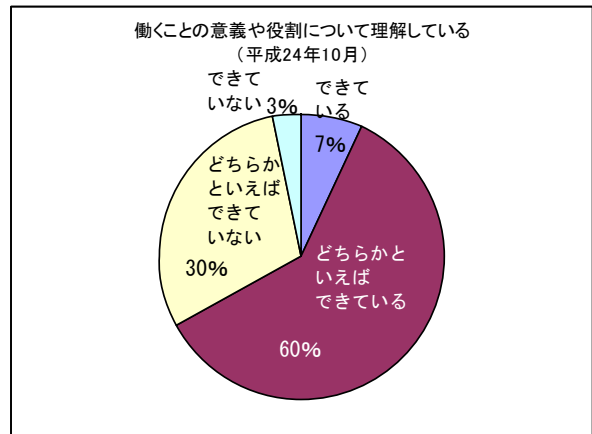
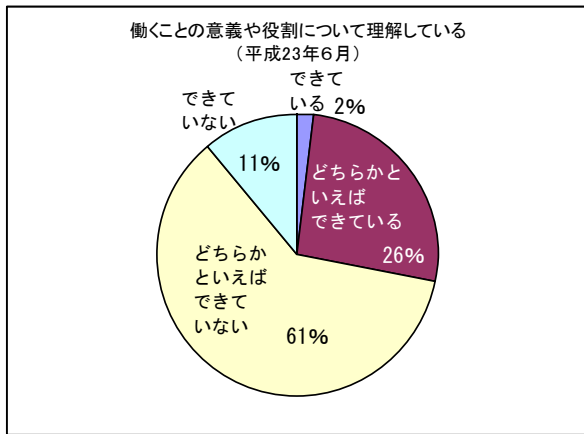
【資料 17 キャリア教育アンケート「キャリアプランニング能力(研究協力委員所属校児童生徒対象)」】



対象人数(6月)  
小学校…227名, 中学校…178名, 高等学校…133名

対象人数(10月)  
小学校…229名, 中学校…174名, 高等学校…127名

【資料 18 キャリア教育アンケート「キャリアプランニング能力（研究協力委員所属校教職員対象）」】



対象人数（平成23年度6月）  
小学校…31名，中学校…20名，高等学校…11名

対象人数（平成24年度10月）  
小学校…33名，中学校…25名，高等学校…11名